地域住民意見交換会~未来ビジンを共に考える~

VOL.7 25/09/29

館林駅東エリアプラットフォームでは、エリアの将来像を話し合い、まちづくりの方向性を示す「未来ビジョン」の策定を目指す取組を進めています。この取組の一環として、2025年9月29日(月)に意見交換会を開催し、20代から90代までの40名を超える地域の方々にご参加いただきました。前半は、エリアプラットフォームの設立経緯や、これまで歴史の小径周辺で活動してきた団体の取組紹介が行われ、後半は、グループに分かれて意見交換とグループ意見の発表が行われました。

意見交換会の目的

歴史の小径エリアの将来像を地域の方々と一緒に考え、エリアプラットフォームの未来ビジョンに反映させること

意見交換会概要、出たアイデア・意見

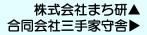
- ① 歴史的な街並み景観創出によって得られる効果と、景観創出のための方法等について
 - ◎ 地域の方の街への愛着形成
 - ◎ 歴史的街並み景観の保存意識が次世代へと繋がる
 - ◆ 織物などを利用したサインの設置(特に紺屋町周辺)
 - ◆ 黒塀の設置、夜間の照明の設置から優先的に行う (昼間の景観統一はすぐには難しい)
 - ◆ 旧町名に戻す
 - ◆ 車の流入を抑え、人が安心して歩ける道にする
 - ◆ 看板アートでの景観創出(時期の花や、当時の景観の看板作成)
 - ◆ 景観創出に対し、住民に理解と共感をしてもらう
- ② 歴史の小径エリアの中で、『利活用できそう』と思う場所と、その活用方法等について
 - ◎ 紺屋町公園(長屋門):キッチンカーや露店を誘致し、夜市や朝市を開催する
 - ◎ 駅前周辺のフェンスなど:板を貼り、黒塀にする(玄関口である駅前の景観を黒塀で統一)
 - ◎ 旧館林二業見番組合事務所や外池商店:宿泊・飲食施設(肴町の全体を思い切って活用)
 - ◎ 各店舗:店舗を所有する方々と交渉し、空きスペースを借り上げて活用する
 - ◎ 歴史の小径:季節ごとに植栽を整備
 - ◆ 空き家の情報が少ない、地権者を集めて相談会
 - ◆ 歴史的な建物は個性でもあるのでなるべく活かしていく
 - ◆ 歴史の小径エリアで定期的に歩行者天国を設ける

活動団体の取組紹介

歴史の小径では、これまでに様々な市民団体による活動が行われており、館林駅東エリアプラットフォームの会員である2団体から、これまでの活動内容について紹介がありました。株式会社まち研からは、「まちなか散策ガイド」や「黒塀の設置」など、まちづくりを考える研究グループ(通称:まち研)の主な活動について紹介がありました。

また、合同会社三手家守舎からは、約10年前に 実施された「館林Re-project」および、その取 組を通じたまちづくりの方法や景観形成につい て紹介がありました。







- 高齢者ばかりとなってしまった、それでも来た人を出迎えるなどは可能。 地域の人がやらなくてはいけない。
- 歴史の小径はとても大切な場所と感じている。長屋門が移転したときは とても嬉しかった。
- 昔は歴史の小径の景観は凄かった。板塀がずらっと並んでいるのは印象 的だった。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました! 意見を館林駅東エリアプラットフォームで整理し、未来ビジョンの策定に繋げていきたいと思います。

お問合せ(事務局): TEL:0276-47-5150 MAIL:toshikei@city.tatebayashi.gunma.jp